

- 問1 743年に出された墾田永年私財法が、その後の日本の土地制度や社会に与えた影響について、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 群馬県公立入試 類似)
- 全ての土地を天皇のものとする公地公民の原則が徹底され、中央集権体制がより強固になった。
 - 貴族や寺社が大規模な土地の私有を進めるようになり、荘園が増加するきっかけとなった。
 - 開墾した土地の私有を3代の期間に限定したため、一時的に農業生産が向上したがすぐに衰退した。
 - 武士が各地の土地を実力で支配することを認め、鎌倉幕府が成立する直接の原因となった。
- 問2 古代の肥後国（現在の熊本県）から絹が都へ納められたことを記録した木簡が発見されています。このように、律令国家において地方の特産品を都へ納めさせた税の仕組みについて説明した文として最も適切なものを選びなさい。 (2026年 熊本県公立入試 類似)
- 田の面積に応じて収穫した稲を納めさせた税で、租と呼ばれる。
 - 地方の特産品を都へ納めさせた税で、調と呼ばれる。
 - 都での年間10日間の労役に代えて布などを納めさせた税で、庸と呼ばれる。
 - 地方の農民に年間60日を限度として無償で土木工事などを行わせた負担で、雑徭と呼ばれる。
- 問3 聖武天皇が平城京に東大寺を建立した背景にある、当時の社会状況と政治的な目的として最も適切な説明はどれですか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
- 仏教の力によって国家の安定をはかる「鎮護国家」の思想に基づき、疫病や反乱などの社会不安を解消しようとした。
 - 唐から伝わった最新の建築技術を誇示することで、地方の豪族を威圧し、中央集権体制を強固にしようとした。
 - 遣唐使によってもたらされた禅宗の教えを広めるため、国家の予算を投じて巨大な寺院を建設した。
 - 死後に極楽浄土へ行けることを願う「浄土信仰」が貴族の間で広まったため、その中心的な修行の場として建立した。
- 問4 律令制が整えられた時期、政府は戸籍を作成して人々の把握に努めました。この戸籍に基づいて行われた「班田収授法」の内容として、最も適切な説明はどれですか。 (2016年 静岡県公立入試 類似)
- 有力な貴族や寺社が所有する大規模な私有地を、国家の直轄地として没収する制度。
 - 6歳以上の男女に口分田を与え、死亡した際にはその土地を国に返還させる制度。
 - 平城京の周辺にある土地を、功績のあった役人に対して永久に与える制度。
 - 新しく開墾した土地を、三世代にわたって私有することを認める制度。
- 問5 10世紀の阿波国の戸籍に関する記録では、高齢者の層において女性の割合が不自然に高く、男性が極端に少ないという状況が示されています。このような歪んだ人口構成が記録された理由として、当時の社会背景を説明したものとして正しいものはどれですか。 (2021年 静岡県公立入試 類似)
- 頻発する対外戦争によって多くの成人男性が戦死し、実際に高齢まで生き残る男性がほとんどいなくなった
 - 当時は女性の地位が男性よりも高く、女性にのみ広い口分田が与えられる制度であったため、女子としての登録が推奨された
 - 男性には租・調・庸などの重い税負担があったため、死亡を隠す、あるいは性別を偽って登録することで負担を逃れようとした
 - 男性は墾田永年私財法によって私有地の開墾が認められたため、口分田を返還して戸籍から抜ける者が相次いだ
- 問6 万葉集の内容について、他の時代に編纂された和歌集と比較した際に見られる際立った特徴として適切な説明はどれですか。 (2023年 新潟県公立入試 類似)
- 天皇や貴族だけでなく、防人や農民など幅広い階層の人々の歌が収録されている点
 - 全編が仏教の教えを広めるための宗教的な目的で構成されている点
 - 紀貫之らによって、すべて平仮名を用いた繊細で優美な表現のみでまとめられている点
 - 後鳥羽上皇の命令によって、武士の台頭に対抗する公家文化の象徴として編纂された点
- 問7 743年に墾田永年私財法が制定された背景と、その目的を説明した内容として最も適切なものはどれか。 (2022年 徳島県公立入試 類似)
- 武士の台頭を抑えるために、貴族の経済基盤を強化して朝廷の権威を回復させる目的で制定された。
 - 土地の売買を自由化することで、農民が借金を返済しやすくし、浮浪や逃亡を防ぐ目的で制定された。
 - 人口の増加により食料となる米が不足していたため、土地を永久に自分のものにできるという保証を与えて、人々の開墾意欲を高める目的で制定された。
 - 中国の唐にならって中央集権体制を確立するため、すべての土地を一度国家に回収し、改めて再分配する目的で制定された。
- 問8 奈良時代の律令制度において、全国の成人男子に課された負担のうち、平城京での10日間の労役に代えて、布などを都へ納めることで認められていた税制度を何と呼びますか。 (2026年 鹿児島県公立入試 類似)
- 租
 - 雑徭
 - 庸
 - 調
- 問9 律令制度の基本原則の一つである土地制度について述べた次の文の空欄に適する語句の組み合わせを選びなさい。「律令国家は、戸籍に登録された6歳以上の男女に対して（①）を分け与え、死後に国へ返還させる班田収授の法を実施した。しかし、人口の増加に伴い支給する土地が不足したため、政府は743年に新しく開墾した土地の永久私有を認める（②）を制定し、土地の不足を解消しようとした。」 (2019年 神奈川県公立入試 類似)
- ① 宅地 ② 公地公民の法
 - ① 公田 ② 三世一身の法
 - ① 墾田 ② 班田収授の法
 - ① 口分田 ② 墾田永年私財法
- 問10 7世紀から9世紀にかけて、当時の日本が先進的な律令制度や仏教文化を吸収するために、中国の王朝へ派遣した公式の使節団を何と呼ぶか、正しいものを選びなさい。 (2017年 神奈川県公立入試 類似)
- 朝鮮通信使
 - 遣唐使
 - 遣明使
 - 遣隋使
- 問11 7世紀から9世紀にかけて、日本が律令などの進んだ制度や仏教文化を直接学ぶために、たびたび使節を派遣した中国の王朝はどこか。 (2018年 大阪府公立入試 類似)
- 魏
 - 漢
 - 唐
 - 宋
- 問12 7世紀後半、白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れた倭（日本）が、九州北部の太宰府周辺に「水城（みづき）」と呼ばれる大規模な土塁や、大野城などの山城を築いた理由として、最も適切な背景はどれですか。 (2022年 岡山県公立入試 類似)
- 唐や新羅による日本本土への侵攻を警戒し、防衛体制を強化するため
 - 大陸から伝わった仏教の教えに基づき、巨大な寺院を保護するため
 - 遣唐使を安全に派遣するための巨大な港湾施設を整備するため
 - 九州に割拠する豪族たちを武力で制圧し、中央集権化を進めるため
- 問13 大化の改新以降、土地と人民は国家のものとする原則があったが、奈良時代に入るとこの原則は崩れていった。国家から与えられ死後に返還する「口分田」に対し、貴族や寺院が独自に保有・支配した私有地は何と呼ばれるか。 (2022年 青森県公立入試 類似)
- 株仲間
 - 公地公民
 - 班田収授
 - 荘園

答え合わせ・解説

問1	答え 2 貴族や寺社が大規模な土地の私有を進めるようになり、荘園が増加するきっかけとなった。	墾田永年私財法によって土地を永久に私有できるようになったため、財力や労働力を持つ貴族や寺社が積極的に開墾を行い、広い私有地（荘園）を持つようになりました。これにより、国家が土地を管理する公地公民の仕組みが崩れ始め、中世の荘園公領制へとつながる大きな転換点となりました。
問2	答え 2 地方の特産品を都へ納めさせた税で、調と呼ばれる。	肥後国から絹が納められた木簡の記録は、地方の特産品を都へ納めさせる「調」の制度を示しています。稲を納める「租」や労役に代わる「庸」とは負担の内容が異なります。
問3	答え 1 仏教の力によって国家の安定をはかる「鎮護国家」の思想に基づき、疫病や反乱などの社会不安を解消しようとした。	聖武天皇の時代は、天然痘の流行や藤原広嗣の乱など、社会的に非常に不安定な時期でした。こうした困難を乗り越えるため、仏教の教えによって国を治める「鎮護国家」の考えが採用され、その象徴として東大寺や大仏が造られました。「浄土信仰」は平安時代中期以降に盛んになったものであり、時代背景が異なります。
問4	答え 2 6歳以上の男女に口分田を与え、死亡した際にはその土地を国に返還させる制度。	律令国家の形成期において、国家は「租」という税を確実に集めるために、班田収授法を確立しました。戸籍をもとに6歳以上の男女に口分田を割り当て、労働力を把握すると同時に、土地の売買や世襲を禁じることで、国家による土地支配を維持しようとした。これに対して、後に制定された「墾田永年私財法」は、開墾した土地の永年私有を認めるものであり、班田収授法の崩壊につながる出来事でした。
問5	答え 3 男性には租・調・庸などの重い税負担があったため、死亡を隠す、あるいは性別を偽って登録することで負担を逃れようとした	律令制において、男性は租だけでなく調や庸、防人などの兵役といった非常に重い負担を負っていました。一方で女性の負担は男性の3分の1程度（租のみ）であったため、税負担を回避するために男性の死亡を隠したり、男性を女性として登録する「偽籍」という行為が横行しました。この結果、戸籍上の男女比が実態とかけ離れたものになりました。
問6	答え 1 天皇や貴族だけでなく、防人や農民など幅広い階層の人々の歌が収録されている点	万葉集には、北九州の警備にあたった人々の心情を詠んだ「防人の歌」や、東日本の民衆の暮らしを詠んだ「東歌（あずまうた）」などが含まれています。このように名もなき人々の素朴で力強い感情が収められている点は、後の時代の貴族中心の勅撰和歌集には見られない、この時代特有の大きな特徴です。
問7	答え 3 人口の増加により食料となる米が不足していたため、土地を永久に自分のものにできるという保証を与えて、人々の開墾意欲を高める目的で制定された。	当時の日本では、人口増加に対して口分田が足りなくなっており、食料不足が深刻な課題でした。政府は当初、723年の三世一身の法で期間限定の私有を認めましたが、返還期限が近づくとも農民が土地を荒廃させてしまう問題が発生しました。そのため、期限のない「永年」の私有を認めることで、長期的な視点での開墾と食料生産の拡大を狙ったのがこの法令の背景です。
問8	答え 3 庸	律令制における租税のうち、都での労役に代えて布を納める制度が庸です。これに対し、口分田の面積に応じて稲を納めるのが「租」、地方の特産物を納めるのが「調」、地方での土木工事などの労役（年間60日以内）が「雑徭」です。
問9	答え 4 ① 口分田 ② 墾田永年私財法	律令制度の下では、公地公民の原則に基づき、人々に一定の農地を分け与えて税を徴収する仕組みが整えられました。このとき支給された農地が口分田です。その後、人口増加による土地不足が深刻化したため、政府は開墾を奨励するために三世一身の法を経て、743年に墾田永年私財法を出し、開墾した土地を永久に自分のものにすることを認めました。
問10	答え 2 遣唐使	古代の日本は、中国の「唐」の優れた制度や文化を学ぶために、約200年間にわたって使節を派遣しました。これが遣唐使です。遣隋使はそれ以前の「隋」の時代に派遣されたものであり、朝鮮通信使は江戸時代に朝鮮王朝から日本へ派遣された使節を指します。
問11	答え 3 唐	日本は7世紀初めから遣隋使を送り、隋が滅んだ後は唐に使節（遣唐使）を送りました。唐の優れた政治制度や文化は、当時の日本の国づくりに大きな影響を与え、国際色豊かな「天平文化」などが発展するきっかけとなりました。
問12	答え 1 唐や新羅による日本本土への侵攻を警戒し、防衛体制を強化するため	白村江の戦いでの敗北後、大和政権は大陸からの報復的な侵攻を受けることを強く恐れました。そのため、外交の拠点であった太宰府の周囲に、防波堤のような役割を持つ水城や、逃げ込み用の山城を急いで築くことで、国土防衛を固めようとした歴史的背景があります。これは当時の東アジアの緊張感を示す重要な動きです。
問13	答え 4 荘園	公地公民の原則に基づき支給された口分田とは異なり、墾田永年私財法をきっかけに成立した私有地のことである。平安時代にはさらに寄進などを通じて拡大し、国家の支配体制を大きく変える要因となった。班田収授は口分田を与える手続きのこと、株仲間は江戸時代の同業者組合であり、時代や内容が異なる。